

# 高齢者の万引き

## —老年心理学の視点から—

東京都2016年12月12日

桜美林大学大学院老年学研究科

J. F. Oberlin University Graduate School of Gerontology

長田久雄

# 参考資料

- 万引きに関する調査研究報告書～高齢者の万引きに着目して～平成27年7月. 東京万引き防止官民合同会議.
- 高齢犯罪者の特性と犯罪要因に関する調査. 2013年12月. 警察庁・警察政策研究センター及び慶應義塾大学・太田達也教授による共同研究
- みんなで考える高齢者の万引き防止. 平成27年2月10日. 日本大学法学部教授・尾田清貴
- 埼玉県内における万引き被害の現状と対策. 2015年12月15日. 埼玉県警察本部生活安全企画課地域安全対策推進室

# 高齢者に関連する問題

- 交通事故の被害・加害
- 犯罪の被害・加害
- ゴミ屋敷
- 閉じこもり
- 認知症・うつ病・自殺

など

# 高齢者の万引きの背景

- 経済的状况
- 心理・社会的状態：主観的・客観的 (social network・social support・孤独・孤立)
- 知的状態：認知症
- 精神障害：盗癖・神経症・人格障害・・・

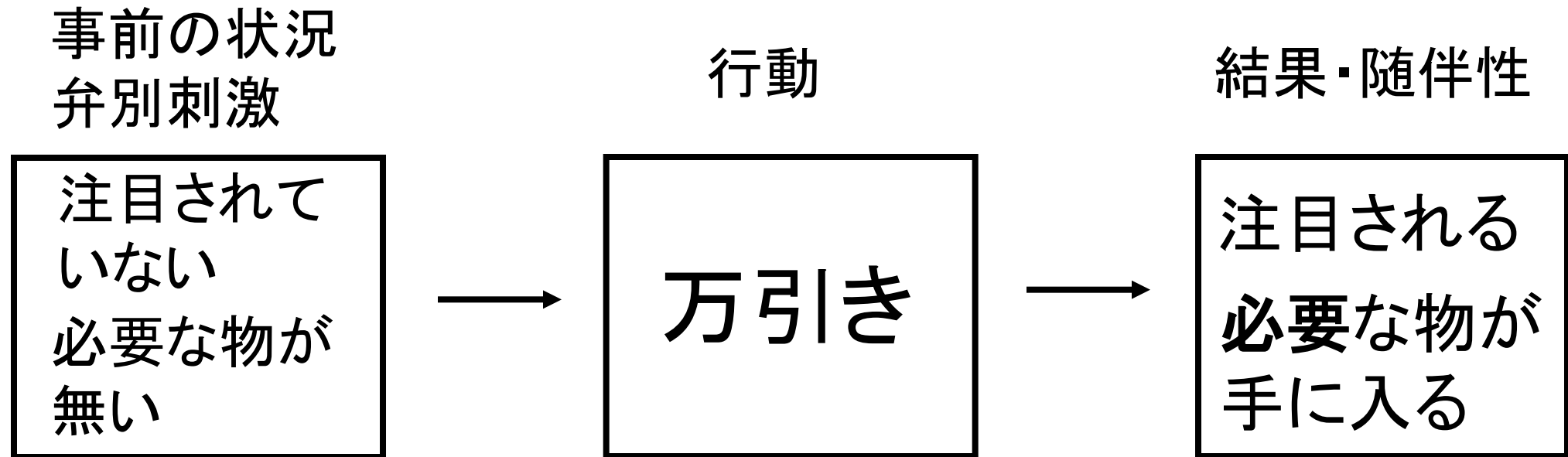
# 高齢者の万引きの実態と背景

- 少年・成人は減少・不変、高齢者は高止まり
  - 少年は初犯、成人・高齢者は再犯者率が高い 東京都万引き防止官民合同会議、平成27年
  - 万引きをした高齢者の半数が独居世帯
  - 特に男性高齢者の孤立が問題
- 但し、高齢者は、他の世代と比べ万引き犯に占める女性の割合が高い
- 高齢者では孤独(23.9%) > 単に欲しかった・ゲーム感覚(5.9%)
  - 少年では孤独(4.0%) < 単に欲しかった・ゲーム感覚(23.9%)
  - 高齢者: 生き甲斐がない(50.3%) 尾田、平成27年

# 具体的な万引きの背景（類型化可能か？）

- 貧困：余命が明確でないための経済的不確定による不安・儉約
  - 認知症：とくに前頭側頭型認知症
  - 孤独
  - 習慣化
- 
- 複雑な複合的背景・原因
- 
- 万引きする高齢者からみた万引き：万引きすることは幸福か？何が得られるのか？→心理的要因：行動分析学による説明

# 行動分析による説明



行動は強化により増加し罰により減少する。  
万引きをすると何が得られるか？  
再犯防止などでは代替行動は無いのか？

強化・報酬・快

罰・不快

# 万引きをした高齢者の半数が独居世帯

→孤立、家族・近所・行政との絆の再構築が必要 尾田、平成27年

→ソーシャル・キャピタル・ネットワーク・サポート

- ソーシャル・キャピタル(社会関係資源): ソーシャル・キャピタルとは、人々の協調行動を活発にすることによって、社会の効率性を高めることができるという考え方に基づき、「互酬性の規範 (お互い様という意識)」「社会的信頼や安心(または治安)」、 および「人々のつながり、ネットワーク」の3つの循環と相乗効果により維持形成される社会的仕組みのことである (Puttnum, 2000)。
- ソーシャルサポート: 手段的・情動的・情緒的・評価的



# 高齢者の万引きの心理的背景(私見)

- 万引きが犯罪(悪事)であることの自覚: 貧困→有、認知症→無・希薄
- 孤独: 孤立、役割喪失、存在価値・存在意義喪失、生きがい喪失
- 自己破滅的行動・自暴自棄: 自尊感情・自己効力感
- 手持ち無沙汰

→素朴な疑問: 万引きをする高齢者は幸福か?: 幸福感尺度

# LSIK

- Life satisfaction index K
- 出典：古谷野, 柴田, 芳賀ら(1990)
- 回答方法：
  - 「いいえ」:0
  - 「はい」 :1 の2件法

1. 今の生活に不幸なことがある\*
2. 私の人生は恵まれていた
3. 人生をふりかえってみて満足できる
4. 人生で求めていたことを実現できた
5. 生きることはきびしい\*
6. 物事をいつも深刻に考える\*
7. 小さなことを気にするようになった\*
8. 去年と同じように元気だ
9. 年をとって役に立たなくなった\*

\*は逆転項目

# 孤独感の心理学的定義と共通性

孤独感には様々な定義があるが、その概ねの共通点

1. 孤独感を個人の社会的関係の欠如によって起因すると考えている点。
2. 孤独感を主観的体験であると考えている点。
3. 孤独感という体験を不快で苦痛を伴うものと考えている点。

(Peplau & Parlman)

# AOK孤独感尺度

- Ando, Osada & Kodama Loneliness Scale
- 出典: 安藤, 長田, 児玉(1990)
- 回答方法: 1, 2 の2件法

1. あなたはまわりの人たちとうまくいっていると思いますか
2. あなたは人とのつきあいがない方ですか
3. あなたには親しくしている人がいますか
4. あなたのことを本当によくわかってくれる人は誰もいないと思いますか
5. あなたには何かやろうとした時、一緒にできる人がいますか
6. あなたはほかの人たちから孤立しているように思いますか
7. あなたのことを本当に理解してくれる人がいますか
8. あなたはひとりぼっちだと感じますか
9. あなたのまわりには心の通いあう人がいますか
10. あなたには話し相手がいますか

- |           |            |
|-----------|------------|
| 1. そう思う   | 2. そうは思わない |
| 1. ない方だ   | 2. ある方だ    |
| 1. いる     | 2. いない     |
| 1. いないと思う | 2. いると思う   |
| 1. いる     | 2. いない     |
| 1. そう思う   | 2. そうは思わない |
| 1. いる     | 2. いない     |
| 1. 感じる    | 2. 感じない    |
| 1. いる     | 2. いない     |
| 1. いる     | 2. いない     |

青色網掛けを選択すると1点が与えられる

# 客観的孤立と主観的孤立と孤独

- 客観的孤立：観察可能→ソーシャル・ネットワークなど
- 主観的孤立：自分自身の孤立に対する認知評定など
- 孤独：(生活)感情

# 孤立と孤独

• 孤立 ≠ 孤独

• 客観的孤立

≠ 主観的孤立

≠ 孤独



# 高齢者の孤立と孤独のとらえ方論理的類型

- 客観的孤立+ → 主観的孤立+
- 客観的孤立+ → 主観的孤立-
- 客観的孤立- → 主観的孤立+
- 客観的孤立- → 主観的孤立-
  - 孤独+
  - 孤独-

# 客観的孤立 + 主観的孤立 + 孤独 +

- 社会的に孤立しており、ソーシャル・ネットワークも乏しく、本人も社会的に孤立していると認識、自覚しており、孤独、すなわち寂しさを感じている人

# 客観的孤立＋ 主観的孤立－ 孤独＋

- 自分が孤立しているという事実気づいていないか、もしくは防衛的に抑圧などにより孤立を認識しない場合もあるが、いずれにしても、孤立はしていないと思いつながら、孤独は感じている人である。

# 客観的孤立＋ 主観的孤立－ 孤独－

- 孤立してはいるが、孤立しているという自覚も無いし、孤独でも無いという人。これも孤高を保つ人といえるかもしれないが、たとえば、ゴミ屋敷に近所と隔絶している人の中には、自分が孤立しているという認識を持っていない人がいるかもしれない。

# 客観的孤立－ 主観的孤立＋ 孤独＋

- 客観的には孤立しているとみなされないが、自分自身は孤立していると思っており、孤独も感じている人。高齢になり、配偶者を亡くした後、子どもの家族と同居するようになった高齢者の中には、客観的には子ども夫婦と2人の孫との5人暮らしであっても、昼間は、子どもたちも孫も仕事や学校に行って不在になり、独りぼっちで過ごす人がいる。とくに、子どもの居住地が離れた地域で、高齢の親が長年生活してきた場所を離れて同居するようになった場合には、友人や知人が周囲におらず、地域文化や方言の違いなどによって外出や地域活動も消極的になれば、日中は孤立して生活することになる。日中独居などという言葉もあるが、夜になっても休日でも、子どもや孫は自分たちのペースで生活し、高齢の親は取り残されることがあるかもしれない。同居者がいて、客観的に孤立していないと評価されたとしても、こうした人は孤立していると感じており、孤独感をもっているかもしれない。

## 客観的孤立－ 主観的孤立－ 孤独＋

- 客観的に孤立はしてもしないし、孤立しているという認識も無いが、寂しさは感じている人。人間関係の欠如も無く、また、そうした認識も無いにもかかわらず寂しいということは、社会心理学的に捉えれば、孤独と見なすことができないかもしれないが、人の存在そのものが孤独であるというような考えを想定すれば、このような人もありえよう。この中で、苦悩を伴う病的な孤独を持つ人は、心理臨床や精神医療の対象となるであろう。

# 型別「処方」私案

- 客観的孤立＋ 主観的孤立＋ 孤独＋  
→社会的支援・カウンセリング等心理臨床支援
- 客観的孤立－ 主観的孤立＋ 孤独＋  
→対象の状況に合ったネットワーク作り等により主観的孤立に対応
- 客観的孤立＋ 主観的孤立－ 孤独＋  
→孤立の認知を変容するための支援
- 客観的孤立－ 主観的孤立－ 孤独＋  
→孤立以外の孤独の源泉に対する心理臨床的支援

高齢者：生き甲斐がない(50.3%)

尾田、平成27年

- 高齢者の生きがいの特徴
- 自分の存在価値や意義、役割感の喪失  
→自分を認められたいという気持ち
- 役割を持つこと、持って頂くことを通して  
存在価値や意義を確認ができる



# 高齢者の万引きの直接的対策

- 声かけの効果、匿名性の消去→責任の拡散
- 挨拶・声かけ満足度 顧客満足度が高いことが良好、万引き断念の高齢者65.2%、少年でも6割→方法の工夫・高齢者ボランティア？
- 高齢者の万引きの時間帯10時～13時(36.8%)、13～16時(27.0%)
- 使いたく無い(48.0%) > 所持金有・余裕が無い(14.7%)  
cf.少年では所持金無し(38.1%) 高齢者では将来への不安から万引きを行うことが多い→経済的安定→社会保障
- 高齢者では反省も多い、交友関係が希薄の可能性  
→情報的ソーシャル・サポート

# 非行の中和の(技術)理論

Matza, D. & Sykes, G.M.

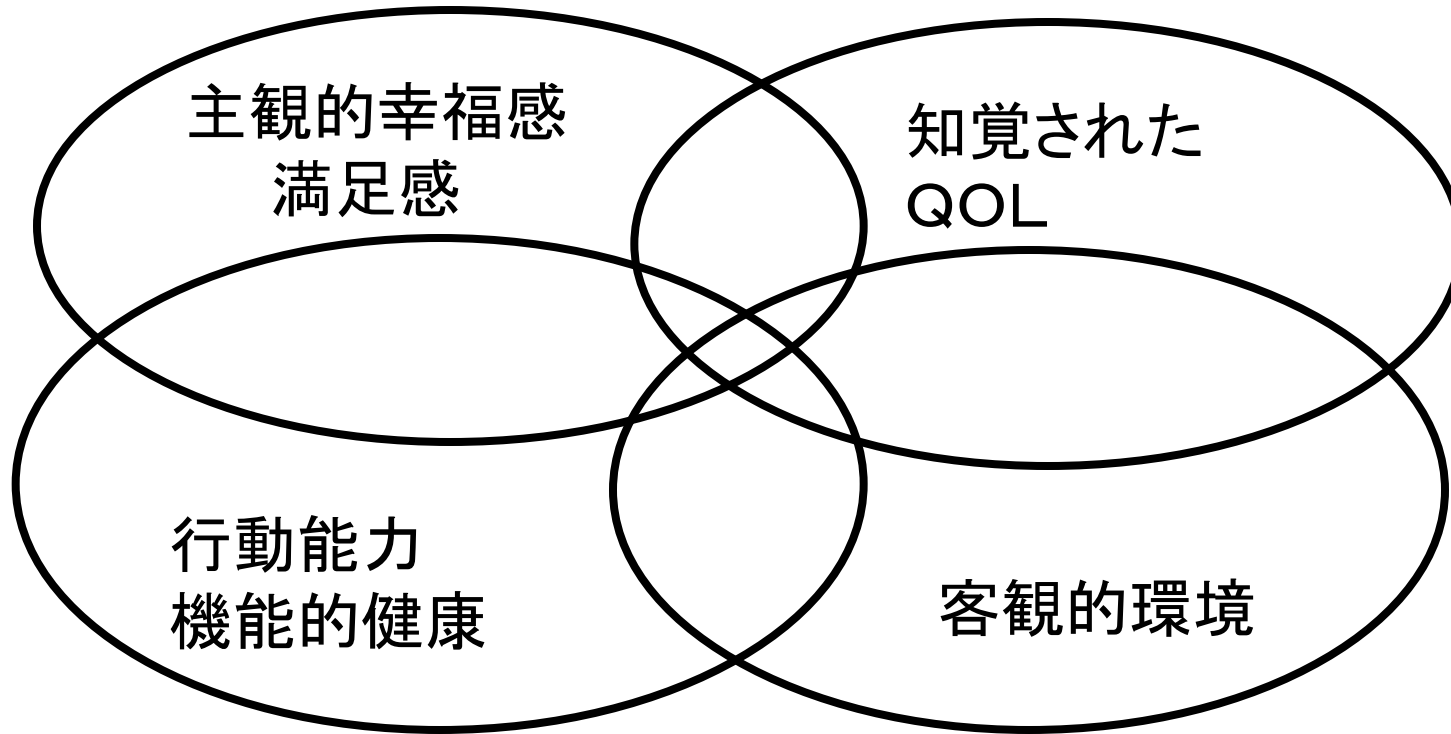
尾田、平成27年

- 責任の否定: 買い取ればいい
- 加害の否定: 価格に上乗せされている、盗難保険で補填される
- 被害の否定: とられるような商品配置をしているのが悪い
- 非難者の非難: 運が悪い(みんなしている)

# 高齢者を理解する際の視点

- 分析(診断)的理解・共感的理解
- 老化と生涯発達: 衰える機能と衰え難い機能
- 高齢者の肯定的側面の評価と活用: エイジイズムの解消
- 高齢者の生活の質
- 個人間差・個人内差の拡大

# 老年期のQuality of Lifeの構成要因 (Lawton,P.)



# 万引き(再犯)防止の視点:より広い高齢者支援の観点から

- 自己の存在への脅威や生きる意味の喪失の快復
- 生きがいの支援:生きる意味・存在意義・生きる価値とその自覚
- 生活の質の支援←幸福感・満足感・環境調整・自己評価
- 動機:高齢者が万引きによって何を得ているのか?代替行動の強化
- ソーシャル・ネットワーク・サポート:犬の散歩・傾聴活動・居場所
- ソーシャルサポートの情緒的・手段的・情動的・評価的サポート
- 与えるサポート→店舗での高齢者ボランティアの活用の可能性は?

## 役割の提供

- 世代間交流の活用
- 叱り役と褒め(認める注目する)役

など

ご静聴有り難うございました。